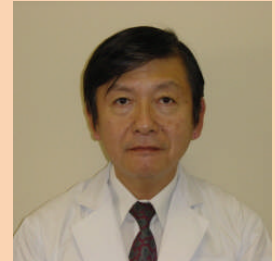


埼玉県立循環器・呼吸器病センターだより

清秋の候、皆様方におかれましては、ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。

当センターは、循環器系及び呼吸器系の専門病院として、高度先進医療の提供に努めております。今後とも医師会の先生方との連携を推進し、職員一丸となり病院運営を進めて参りますので、御指導、御鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



病院長 城下博夫

第 1 5 回記念肺病理講習会を開催 (病理診断科)

7月28日、熊谷市内のホテルで第15回肺病理講習会を開催しました。今回は第15回記念として、米国の Mayo Clinic Arizona から、国際的に著名な呼吸器病理専門の TV Colby 先生を講師として迎えました。その他の講師には、病理は関東中央病院の岡輝明先生、帝



Mayo Clinic Arizona TV Colby 先生の講演

京大学溝口病院の川本雅史先生、NHO 東京病院の蛇澤晶先生と当センター河端美則医師、放射線は埼玉医科大学国際医療センター酒井文和先生と当センター叶内哲医師、臨床は埼玉医科大学臼井裕先生をお迎えしました。テーマは昨年に続き肉芽腫性肺疾患でしたが、締切り前に定員に達し全国から 232 名の参加を得ました。

内容に関しては特に Colby 先生の講演についての評価が高く、系統的で難しい分野をわかりやすい英語で話していただきました。予算の関係で通訳をつけられませんでしたでしたが、6 例の症例検討の回答と講演に、高い評価が得られたので、第 15 回記念講習会としての役割を果たすことができたことと安堵しています。また国内の講師の先生方も工夫をこらした魅力的な講演で、アンケートでも高い評価が得られました。

来年は社会的に大きな問題になっている石綿曝露を中心とした塵肺症を予定しています。



認定看護師の活動紹介

認定看護師とは、5年以上の看護実務経験があり、各領域の認定看護師教育課程を修了し、日本看護協会の認定試験に合格した者に与えられる資格です。

当センターには、8領域の認定看護師がおり、それぞれの領域に関する専門性の高い看護師として活動していますが、今後は地域の皆様方と協働していきたいと考えています。

具体的には、日々の看護実践に関する相談、院内研修への協力、事例検討会への参加などを考えています。ご希望に応じて、直接みなさまの施設へ出向かせていただき、これらに取り組んで参ります。

どうぞお気軽にお声掛けくださいますようお願いいたします。

「緩和ケア」認定看護師（金子和恵・呼吸器内科（A2）病棟所属）

緩和ケアとは、緩和ケア病棟など特定の場所で行われる特別なケアではありません。がんや治療が困難な進行性の病気にかかったとき、その診断の時から、その病気と共に生きる時の、患者さんやご家族が抱える様々な不安や苦痛な症状を緩和していくことです。

病院スタッフと共に、患者さんやご家族の痛みやつらい気持ちなどを和らげるため、支援させていただきたいと思っています。



「がん性疼痛看護」認定看護師（山戸千枝・呼吸器内科（A1）病棟所属）

がんの痛みは、体力を消耗するだけでなく、気力や闘病意欲を奪うなど精神面にも悪影響を及ぼします。

がん性疼痛看護認定看護師は、患者さんの身体の痛みをはじめとし、患者さんやご家族の抱える様々な痛みや不安を軽減する方法を一緒に考えていきます。そして、がんの患者さんが痛みや不安から解放され、自分らしく過ごせるように、患者さんとそのご家族の生きる力を応援させていただきます。



「皮膚・排泄ケア」認定看護師（川上幸子・C/SCU所属）

身体的な問題で体が動かすことができない方や、治療上必要な安静が強られる方には褥瘡ができてしまうことがあります。入院時から褥瘡の発生リスクを考え適切に対応させていただくよう褥瘡対策チームを編成し取り組んでおります。創傷や褥瘡発生後は回診をおこない医師や病棟看護師からの相談にも対応しています。

排泄に伴う問題には、周囲の皮膚にトラブルが起こらないようなケアを提案させていただくことや、排泄方法についても患者さんと共に考えています。また、スキンケア全般についても具体的な援助方法の相談を受けています。



「がん化学療法看護」認定看護師（下田純子・外来所属）



がん化学療法看護は、がん化学療法を受ける患者さんとご家族を支え、安全・安楽を守っていくことを使命とし、がん化学療法の治療期とその後のフォローアップ期、治療の選択期にかかわる看護を専門としています。

そのため、がん化学療法認定看護師として、患者さんやご家族が安心して治療を受けられるように、治療選択や薬の副作用、退院後の生活についてなど、一緒に考えていける立場にいたいと考えています。そしてスタッフの皆さんの教育や相談に関わらせていただき、がん化学療法看護の実践能力の向上に貢献できるように、日々努力していきたいと思っています。

「糖尿病看護」認定看護師（石毛圭輝・心臓血管外科（4西）病棟所属）



糖尿病看護認定看護師は、糖尿病と診断された患者さんや合併症を起こしてしまった患者さんに対して、病気の進行や悪化を防ぐと共に、その人らしく穏やかな生活が継続できるように、生涯続くセルフケアや療養生活を支援する役割を担っています。

活動内容は、長年糖尿病のコントロールが思わしくない患者さんへの生活調整支援、患者さんや家族へのインスリン自己注射・血糖自己測定の指導などがあります。また、医療スタッフが慢性疾患患者の支援方法を理解し実践できるよう、院内教育やスタッフからの相談を受けることも活動としております。

「摂食・嚥下障害看護」認定看護師（笠原希美・C/SCU所属）

口から食べることは、患者さんの生きる喜びであり、生きる原動力になります。摂食・嚥下障害看護とは、脳血管障害や高齢などのため口から食べることができなくなった患者さんや家族の「もう一度口から食べたい」という願いを支える看護です。

患者さんの嚥下機能を評価し、個々に合わせた摂食・嚥下訓練や代償法を実践、食形態の調整を通し患者さんが安全に楽しく食事ができるように支援していきたいと思っています。



「脳卒中リハビリテーション看護」認定看護師（大島隆幸・脳神経外科（3西）病棟所属）

脳卒中は、突然発症し、麻痺などの後遺症が長期に生じることもあり、身体的・精神的に様々な影響を与えます。脳卒中後遺症の回復には、どのような治療、リハビリを受けるかが重要だといわれています。

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師として、積極的なリハビリが必要な急性期の患者さんの支援を行うだけでなく、在宅で日常生活動作に即したリハビリを行っている方々とその家族の支援も行っていきたいと考えています。



「慢性心不全看護」認定看護師（笠井美穂・4階東病棟所属）

循環器疾患を抱えている患者さんは、心不全を発症するリスクをもっています。最近、心不全は進行性の病態として取り上げられています。そのため、看護としては、心不全を発症する危険因子をもっている段階からの指導や、心不全の増悪を繰り返す患者さんが再び心不全を発症しないように、心不全の進行を抑えるような支援が重要です。



患者さんが、自分で心不全の発症を回避できるような支援や指導、心不全の症状緩和、自宅での生活調整など、患者さんやご家族と一緒に検討し、支援していきたいと考えています。

認定看護師に関するお問い合わせは、循環器・呼吸器病センター看護部（田村）までお願いします。TEL048-536-9900

【公開研修会のお知らせ】 ~褥瘡研修会を開催しますのでご参加を~
 第1回目 平成24年10月5日（金）栄養管理、創傷被覆材の使用法
 第2回目 平成24年11月9日（金）褥瘡治療に使用する薬剤の特徴と選択方法
 両日とも18：00～19：00、当センター5階講堂
 研修会へのお問い合わせは看護部（池田）までお願いします。

外来診療スケジュール

平成24年10月1日現在

診療科	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
循環器内科	石川 哲也 村上 彰通 宮永 哲 木村 悠	石川 哲也 村上 彰通	宮本 敬史 宮永 哲 鈴木 輝彦	宮本 敬史 宮永 哲 鈴木 輝彦 石丸 安明 新井 鐘大 ペースメーカー	武藤 誠 藤井 拓朗 伊東 哲史	武藤 誠 藤井 拓朗	柴山 健理 仲野 陽介 宮永 哲 ペースメーカー	柴山 健理 仲野 陽介	堤 稜志 藤井 真也 心臓リハビリ (隔週)	柴山 健理 堤 稜志 藤井 真也
(循環器小児科)					小川/菱谷 ※1	小川/菱谷 ※1				
心臓血管外科			蜂谷 貴	蜂谷 貴			小野口勝久 田口 真吾	田口 真吾	花井 信 山崎 真敬/ 山城理仁※2	花井 信 山崎 真敬/ 山城理仁※2
脳神経外科	城下 博夫 幸田俊一郎	幸田俊一郎			金子 伸幸 柳澤 俊介	金子 伸幸			城下 博夫 坪川 民治	城下 博夫 坪川 民治
呼吸器内科	杉田 裕 高久洋太郎 宮原 庸介 石黒 卓		杉田 裕 柳澤 勉 倉島 一喜 鍵山 奈保 河手絵理子 小林 洋一		高柳 昇 柳澤 勉 中本啓太郎 宮原 庸介		高柳 昇 石黒 卓 高久洋太郎 太田 池恵 若林 綾 合地 美奈		倉島 一喜 鍵山 奈保 中本啓太郎 山川 英晃	
呼吸器外科	星 永進		高橋 伸政		村井 克己		池谷 朋彦		鈴木 潤	
消化器外科	神山 陽一				岡田 幸士				神山 陽一/ 岡田 幸士※3	
放射線科	叶内 哲 松本 寛子	叶内 哲 松本 寛子			松本 寛子	松本 寛子				
リハビリテーション科	洲川 明久				洲川 明久				洲川 明久	

※1 循環器小児科は第1・3・5水曜日は菱谷医師、第2・4水曜日は小川医師が診察します。
 ※2 心臓血管外科の山崎医師は第1金曜日のみ、山城医師は第3金曜日のみ診察します。
 ※3 消化器外科は第1・3・5金曜日は神山医師、第2・4金曜日は岡田医師が診察します。
 ● 重症で緊急な処置を必要とする場合は、診療時間外でも対応します。
 ● 受診にあたってのお願い
 ● 当センターは紹介制です。初診時に紹介状が無い場合、別途2,620円かかります。
 ● 初診の方は、原則として午前の診察となります。
 * 受付時間は午前8時30分から午前11時までです。
 * 脳神経外科及び放射線科は、午後診察のある日のみ午後でも受け付けます。
 ● 当センターは予約制です。事前に電話予約するよう患者さんへお伝えください。
 * 事前に予約のない方は、予約患者さんの診察終了後の受診となります。

埼玉県立循環器・呼吸器病センター

〒360-0197 熊谷市板井1696
 TEL:048(536)9900(代)
 FAX:048(536)9916
<http://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/q03/>